

## 第1号議案

# 平成25年度 事業報告

平成25年 4月 1日から

平成26年 3月31日まで

平成25年度は、震災からの復興や原発問題等多くの課題がある中、アベノミクスによる経済効果やオリンピックの東京開催決定などで、長らく停滞していた日本経済にようやく明るい兆しが見え始めた。緑化産業としても今後の本格的な回復に期待するところは大きいですが、現状は依然として厳しい経営を強いられている。

公益法人への移行については、昨年4月1日に登記を済ませ移行が完了した。平成25年度は、「公益社団法人福岡県樹芸組合連合会」として初年度であったが、4つの公益事業と収益事業等については、役職員、会員あがでの取り組みにより所期の目的を達成することができた。

福岡県緑化センターの管理・運営については3期目5箇年間の指定管理の2年目に当たり、緑知コーナーの設置や温室及び園内の改良など施設の充実を図りながら、緑についての体感、学習、普及を更に進める管理運営に努めた。

緑化に関する情報の収集、発信については、機関誌「樹芸」及び「樹芸連だより」の刊行やホームページの更新により、会員並びに外部に対し本会の活動状況の周知やPRを図った。また、「福岡県の緑を考える会」による緑化木在庫表データの充実を図り、広く関係行政機関、緑化関連業界に配布した。

委員会毎の取り組みでは、生産委員会は福岡県との共催で「ほ場品評会」、「出荷品評会」を開催し、緑化木生産技術の向上、生産の振興を図った。この品評会は会員と行政の貴重な意見交換の場としても意義の高いものとなっている。その他、緑を考える会では生産部会を立ち上げ、当会及び県・森林林業技術センターと協力して福岡県の推奨樹種、特にギンバイカの生産技術の開発に努めている。また、県の地域特産物振興事業に協力し、ハゼ苗の生産にも取り組んだ。

造園委員会の造園技能士講習会は、国家資格である「造園技能士検定」1級、2級の講習会で14名の受講者（高校生を含む）を指導し、13名が合格し平均を上回る合格率となっている。

（公社）福岡県シルバー人材センター連合会から委託を受けて実施している「シニアワークプログラム事業」は、ベテラン講師の豊富な経験に裏打ちされた熱心な指導により高い評価を受け、25年度は7回の樹木緑地管理講習を実施した。

このほか緑を考える会と共同で実施した「私たち、子供たちのための緑のキャンペーン」事業は、志免町立志免東小学校の創立40周年記念行事に合わせ同小学校の児童と植樹を実施し、緑の大切さについて普及啓発を図った。

なお、日中緑化交流基金事業については、25年度はボランティア植樹は行わず4月に技術指導を実施した。